

# 石仏の会報 すとーん・さーくる

No.100

発行 新潟県石仏の会(代表 星野 紀子)

2017年10月15日 発行  
事務局 T945-0837 柏崎市三島町16-2 渡邊三四一 電話0257-22-1941  
ホームページ <http://niigata-sekibutu.voxxx.jp>

あいさつ

## 「すとーん・さーくる」 一〇〇号に想う

会長 星野 紀子

会報の名称は？ 会のロゴマークは？ 封筒の色は？ 等々、平成五年にまつたくのゼロから出発した新潟県石仏の会設立準備会では設立総会に向けてさまざまな課題が検討されました。

縄文の遺構ストーンサークルを、石仏を通して集う仲間たちと結び付け、会報の名称を「すとーん・さーくる」とひらがな表記で創り上げたのは渡邊三四一現事務局長、

漢字の「石」と種子を組み合わせたロゴマークを考案したのは新潟市の渡辺景子さん。そうした発起人の方々の英知が集められ、会の発足と同時に「すとーん・さーくる」も誕生しました。

その誕生から一〇〇号を数え、B5だった体裁はA4に変わり、上越、中越、下越、新潟の各事務局が編集を担当してきた年四回の「すとーん・さーくる」は下越と新潟の事務局が一緒になつたこと



で、年三回の発行となりました。会の変遷に合わせて「すとーん・さーくる」も変わっていきましたが、四半世紀を経ても変わらないものが一つあります。発行を任されている各事務局が全くの手弁当で、原稿集めや割り付け、発送作業などを行っていることです。担当してきた歴代の役員の方々、それを支え手伝つてくれた会員の方々に心よりお礼申し上げます。

総会や見学会になかなか参加できない会員と会との懸け橋となつて、会の活動や動向を伝えている「すとーん・さーくる」、これからもその役目を担うとともに、一人でも多くの会員の皆さまに紙面を通じてご参加いただけたらこの上ない喜びであります。

それが造立された当時はむしろ、昭和と戦時中までは男女よりも手を結び仲睦まじく振舞うことなどは考えられもせず、晴れやかな祝言でさえほんのうなかつてある風潮の中、この像に込められた祖先たちの願いや期待は何であったのでしょうか。現在とは比べることの出来ない劣悪な環境にもめげず、生きる希望（夢・憧れ）や勇気（期待・願望）を持ち続けていたさと、表面的には権威に従順であるように裝いながら、その裏には反骨の気概と楽天的な大らかさを見せてさして祖先たち。そんな思いが感じられる道祖神である。

# 会員からの声

## これまでの思い出

新潟市 武田辰夫

「石仏の力」展との出合い、私自身にとつて手を合わせる信仰対象としての石仏そのものではなく、同じ目線で石仏に触れ、長い年月を風雪に耐え、人々の生活の移り変わりを見つめてきた石仏（お地蔵さん）は、私たちの生活とともにあつて常に見守つてくださいました。

「お地蔵さん」は、世の中の人々に何を語りかけようとしているのかと思うようになり、新潟県石仏の会に入会いたしました。昨年の「秋田県南地方の藁人形と石仏を歩く」は、私にとって有意義な見学会でした。これからも楽しみにしております。

## 現在の仕事と これからやりたい石仏調査

佐渡市 北見継仁

現在、私の住んでいる集落誌の編さんには没頭中です。発刊は九月上旬を目標にしています。佐渡では久々の集落誌の発行となります。ひとまず落ち着いたら、「祝勇吉著『佐渡の石仏』—佐渡島内石仏・石塔などの集大成—」が出た後に、これをもとになります。

## 「県石仏の会」発会式に参加して

長岡市 荒井昭

平成五年三月九日、日報紙上に「県石仏の会」発足の記事が載りました。石仏に関

物」再調査を行いたいと考えています。

## 有意義だつた石仏の会

小千谷市 広井忠男

奈良時代以前からあつた郷里（小千谷市小栗山六〇戸）には石仏が三〇体あつた。

木喰観音堂（県文化財）と共に、日々の生活の中に村人の信仰民俗が生き続けていた。庚申講、金毘羅様の百八灯、二十三夜講、初午等々であつた。泥棒「七」の地蔵様には毎日登下校時に石を投げつけた。高校、大学は東京で学んだが大江戸にも沢山の石仏があつた。帰京後、故篠田朝隆会員（市公民館長）のお勧めを頂いて本会の仲間に入れて頂いた。

県の公職十六年間に県内視察は數十回はあつた。よほど越佐の隅々まで見たつもりでいた。だが石仏の会で、歩いてさらに念入りに見ることができ感謝している。特に上越、下越、新潟の細部は石仏の会で見学した。本会の一層の発展を祈りたい。

心を持ち始めたばかりの私は即入会を決めました。

四月二十五日、柏崎市立博物館で発会式。当日の概要を私の日記から記します。

午前中は発起人で地元の阿部茂雄さん（故人）の案内で近隣の石仏探訪でした。柏崎市立博物館の調査では、市内の石仏は二千基以上との話に驚いた記憶が残ります。十三時発会式。会員申込者一一六名、本日の出席者六五名。会則審議後満場一致で承認。役員人事は会長・阿部茂雄氏、事務局



長・石田哲弥氏、会計・星野紀子氏が選出されました。

その後、県内四ブロック（上越・中越・下越・佐渡）に分かれて意見交換後、地区別役員も決まりました。具体的活動として、専門的石仏研究に幅をせばめず、各自の持味（趣味など）を活かした幅広い石仏との対話、また地域別見学会実施など話し合われました。

発足後四分の一世纪、会の発展を祈ります。

### 読み解けない石仏（卒の妄想）

魚沼市 渡 邊 隆

入門二十余年、未だお地蔵様にもお目にかかれぬ不信心です。近村老人会の「街道の石像調べ」をお手伝い。その数と多彩に瞠目。「ナゼこのように」と疑問続出。偶然入手の「瞽女口説き地震の身上」(三条地震) 加茂の庄屋斎藤氏作に世相詳述。寺社までマンネリ形骸化し、救済求める、またもな庶民に自前の神仏無理なら、どんな流れがどう働いて、語り豊かな地蔵尊から多様多彩の「信」の文化を創出。

野の石刻は、誰でも何時でも普段着で、望む神仏に出会える場・窓・鏡。形・大小・巧拙問わず? 現代、五感溺れの文明世界。物余りて心貧しく、「見えない世界」を失つ。ご先祖創出の文化（智）は何処に?

## 石仏の会に入会して

阿賀野市 岩 野 笠 子

私が入会させていただいたのは十周年記念大会の頃と記憶して居ります。当時、寒月再建 施主 峠新田」と刻まれている。念仏信仰や歯痛信仰などを調査して居りまして、これらとの関わりの深い供養塔や地蔵などの石造物について、もっと深く知りたいという思いから入会させていただきました。

幸せなことに入会するとすぐに前会長の故阿部茂雄氏から柏崎の四ツ石地蔵を案内していただきたり、故吉村博氏から吉川区のあごなし地蔵を案内していただく機会を得、貴重な調査をさせていただきました。

さらに桑原和位氏から津南町にあごなし地蔵があるとの情報を得、同地区を案内していただき、後日これらをまとめて発表することが出来ました。

石仏の会の魅力は会員の皆様の前向きな研究心と楽しく学べるあたたかさにあります。石仏の会に入会出来たことを感謝いたして居ります。

## 大将陣の馬頭観世音

上越市 水 島 健 吾

関田山脈には古来、信越を結ぶたくさん の街道、峠道が開削された。近世、新井、小出雲からの飯山街道も大いに利用され、

茶屋が三軒造られた。街道の最高点は飯山側の「大将陣」(七四〇m)で、謙信公が兵を休ませた、との伝承がある。ここに「馬頭観世音」の文字塔があり、「文政二年九月再建 施主 峠新田」と刻まれている。文政以前から、ここに馬頭観音が置かれていたのだろう。街道を通る塩の運搬は、主に越後側の牛方が、牛を使って山道を越えた。古くから沢山の塩が越後から運ばれたことから、飯山の富倉集落では「塩の道」とか「謙信塩」と呼んでいる。さて、再建者の峠新田はこの後、「北峠」と集落名を変えている。そして、残念ながら、昭和四十八年十月に北峠集落は廃村になり、現在、ススキの原に分校の校門がぽつんと立っている。二〇〇年前、村人が交通安全と牛馬の安寧を祈つて建てた「馬頭観世音」を、私は年に数回、感謝を込めて触っている。

## 石仏の会と私

長岡市 服 部 優 美

歴史や文化に疎い私が「石仏の会」を知ったのは、四年前の「石仏の力」展を拝見したときです。それまではランニング途中で出会うお地蔵様や通勤路で佇んでいる如意輪観音様に手を合わせることはありましたが、このときは何か惹かれるものを感じました。まさに石仏のチカラです。石仏さんには国宝級の仏像とは異なる重みがあると思いました。

す。疫病や飢饉、子供たちの健やかな成長、旅の安全などその地域の方々の願いや祈り、悲しみなどを静かに見つめてきたんだなあと。そして、その土地で愛され、大切に守られてきた過程や、当時の方々の風習や生活を学ぶことも奥が深いと感じています。

見学会では、タワシ片手に石仏さんをのぞき込むみなさんの熱意や、人生を彩り豊かに過ごしておられる先輩方に刺激を受けています。これからもたくさんの魅力的な石仏さんとの出会いを楽しみにしています。

## 石仏に関心をむけてほしい

津南町 桑原和位

先人たちの文化、宗教史を刻んだ石仏が最近は忘れ去られ、消えつつあるように思えてならない。

豪雪地津南の倒れてしまつた石仏の現状復帰と維持復帰を口にすると、「また、始まつたか、石仏なんて今の社会では何の役にも立たず邪魔にしかならないと思うよ」というような言葉が友だちや周辺からかえつてくる。

一杯飲みながらの話題で、「御爺ちゃんが、以前庚申講で祈つた庚申様（青面金剛）をタワシできれいに洗つてみろ」、庚申様から「ありがとう」といって、いろいろ語りかけてくるんだがなあというのが、どうも友だちや周辺からは、聞く耳持つてくれます。

れない者が多い。

石仏は、私たちが生きる環境の重要な一部です。人間の生活に欠くことのできない歴史文化です。だから、石仏に関心を向けてほしいのです。

関心がうすれ、消えゆく石仏が現代に語りかけるものは何なのか、多くの人たちから考えてほないと強く思います。

## 人生の転機となつた一泊見学会

新発田市 加藤 博

私は七十歳の平成十七年七月三日、「阿部一泊）に参加致しました。三山神社や湯殿山でも、民俗学的な視点から解説して下さいました。夜は宿坊に宿泊。初体験なので好評でした。夕食の席で宿の人には羽黒山伏の修行について聞いたたら「丁度隣が修行の本山だから。」と教えられ、厚かましくも「正善院」へ出向いて、申込書をもらつて来ました。

迷いましたが、その春三月、四〇九五mのキナバル山登頂の高揚感の中で、八月二十五日から一週間の修行に参加。以来、仏教系・神道系と六年間修行を続けることができました。宗教観を確立する端緒となつた見学会に参加できたことに深く感謝して居ります。

私が「石仏の会」に入会させて頂いたきっかけは、平成十五年一月に「彌彦村道路元標」を訪ねた際、当時弥彦総合文化会館芸員の柏原路子さんからご案内頂いたことでした。入会することで「道路元標」の情報が得られるのではと、淡い期待を抱いてのことでした。

## 石との出逢い

新潟市 渡辺 等

カケは、平成十五年一月に「彌彦村道路元標」を訪ねた際、当時弥彦総合文化会館芸員の柏原路子さんからご案内頂いたことでした。入会することで「道路元標」の情報が得られるのではと、淡い期待を抱いてのことでした。

私が「石仏の会」に入会させて頂いたきっかけは、平成十五年一月に「彌彦村道路元標」を訪ねた際、当時弥彦総合文化会館芸員の柏原路子さんからご案内頂いたことでした。入会することで「道路元標」の情報が得られるのではと、淡い期待を抱いてのことでした。

計測・判読などで帰宅時間が気になり諦めて帰つてくることが度々です。これから

も時間を作りながら探訪活動を続けたいと思つております。

## 私の石佛

新潟市 小山 浩

私は石佛を見ると自分のものにしたくな  
る性分。私の家の玄関側にも龍の石佛があ  
る。これは東京の骨董店で見つけ、店主の  
「これは店の飾りだから売れない」という  
のを、二時間程ネバッテようやく手に入れ、  
売主の気の変らない内にと、カツイデ渋谷  
駅迄歩いて行つた事、その重いことを今で  
も忘れない。

家の中に飾つてあるのは大黒天（様）で、  
石製で全身黒、漆塗り、宝珠、俵を黄漆で  
塗つてある。この大黒天は信州諏訪地方の  
蔵の中にお祀りしてあつたもので、通称  
「蔵神様」として崇められておつたと売主  
の方が言つておられた、とのこと。私の石  
佛一〇〇程あり。

会報一〇〇号とは素晴らしいこと、益々の  
発展を祈念いたします。

## 石仏との出会いを思い出して

弥彦村 柏原路子

石仏と初めて出会つたのは、当時住んで  
いた柄尾市で『石仏の里柄尾』の調査をお  
手伝いした時だとずつと思つてきた。しか

し、今回改めてふり返つてみると、思いが  
けず、はるか昔、高校時代の思い出がよみ  
がえってきた。

その頃、私は浦和（現さいたま市）の高  
校に在学していたが、そこの文化祭で、郷  
土研究部が埼玉県内の「一地域の『板碑』」を  
中心に調査した成果発表を見ていた。実物  
(板碑を借用) や、拓本などが展示され、  
フィールドワーク結果もまとめられていた。  
面白いもの、華やかなものが多い高校文化  
祭の中では地味であつたが、部員の熱意が  
見る人に伝わつた。ご存知の通り、この地  
方の板碑は大小さまざまであるが薄い板状  
の形をした緑泥片岩に刻まれているものが  
多い。新潟県内の板碑を最初に見た時、私  
はあまりの違いにびっくりした。

五〇年も前、私はすでに石仏と出会つて  
いた……。忘れていた記憶の引き出しが、  
はからずも開けられたことで、ひとときな  
つかしい思い出にひたることができた。

## 新入りです。宜しくお願ひ致します。

長岡市 井上光威

今年から入会させて頂いた井上と申しま  
す。以前からなんとなく仏像に興味を持ち  
写真を撮影していましたが、特別の勉強を  
したわけでもなく、昨年柄尾の美術館で教  
育委員会発行の『石仏の里柄尾』を拝見し  
て「俺も追いかけてみようかな?」軽い気

持ちで写真を写し始めたところ、地元の人  
たちも所在のわからない石仏が意外とあり、  
区長さんから「柄尾の星野さんという女の  
人が詳しいから、聞いてみたら」と言われ、  
何人かの人に聞いて星野さんにたどり着き  
教えを請い、石仏の会の会長さんというこ  
とを知り、そのまま入会させて頂きました。  
七十四歳の新老人です。石仏の名前・由  
来等々何もわかりません。足手纏いかと思  
いますが宜しくお願ひいたします。

## 会報創刊の頃

柏崎市 渡邊三四一

平成五年に発刊した会報「すとーん・  
さーくる」創刊号（表紙参照）は、日本語  
ソフト「一太郎」で手入力した原稿に写真  
を貼つて版下とし、それをコピーして作成  
したものである。編集は当時事務局員で  
あつた北村親氏と私。発刊当初は年六回の  
隔月刊（後に季刊の年四回）であり、勤  
務先の好意により実費でコピー機を使用さ  
せてもらつた。今考えれば実におおらかな  
時代であつた。

以後、地区事務局からの手書き原稿を入  
力→レイアウト→写真貼付け→コピー→製  
本→発送と、一連の作業を担当二人でしば  
らくこなした。何とか会を軌道に乗せ、盛  
り立てたいとの一心であつたのだと思う。  
若かつた頃の四半世紀前の話である。



鮎のわっぱ飯（只見町にて）

**檜枝岐歌舞伎と  
南会津・石仏の旅**

**一泊有志見学会報告**

柏崎市 伊 比 頂 郎

柏崎からの貸切バスは雨の中、長岡駅で会員二三名を乗せ定刻七時三〇分に出発し道の駅「いりひろせ」で休憩した後、魚沼の山道を登り県内最古の双体道祖神ほかの石仏を鑑賞。

雨が激しくなる中、JR只見線沿いに北上、霧もやに煙る田子倉ダムを見ながら只見町へ入つても雨脚は止まず、見学予定地の「三石神社」は山道なので危険な為、「河井繼之助記念館」に変更。昼食は只見町の割烹「まほろば」で「鮎のわっぱ飯」に舌鼓を打ち、一四時過ぎに檜枝岐村の宿



橋場のばんば（縁切り・縁結び祈願のハサミが奉納）



歌舞伎奉納の舞殿前で



檜枝岐名物「山人（やもーど）料理」（一部）

「かぎや旅館」に到着した後、秘境檜枝岐村の散策に出発した。

奉納舞台会場は鎮守神社の神様が檜枝岐歌舞伎を見られるように配置され、鬱蒼とした杉木立の影に包まれ檜枝岐歌舞伎の悠久の歴史を感じ、千葉之家花駒座の伝承館で継承を続ける村民の苦労を聞いた。縁結びの「橋場のばんば」、校倉造りの「井籠造り板倉」と見て街道沿いの「六地蔵」はその昔、凶作で間引きされた赤子とその母親に思いをはせた。

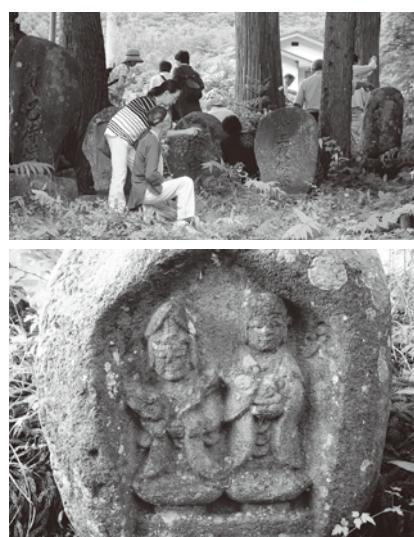
「歴史民俗資料館」では山地を生きてきた山人（やもーど）の工夫した生活に感心した。



早めの夕食で、その“山人料理”をいただいた後、会場へ行き思い思いの席を陣取り、開演を待つこと一時間。今日の演目「一ノ谷嫩軍記・須磨浦の段」が始まった。熊谷次郎直実や平敦盛など昔聞いた名前と筋書きに懐かしさを覚え、玉織姫の女形の演技には東京の坂東玉三郎にも劣らない芸に拍手喝采。



翌日、「岩魚の一夜干し」で朝食した後、訪ねた「前沢の曲家集落」では水車小屋の脇で馬頭観音と馬力神塔が出迎えてくれた。旧家を移築したという資料館では屋根裏にぶら下がった「火伏様」に誰しも色んな思いをはせた。次の「鷲神社」では普段は近くの「三つの滝」の音のみを静かに聞いている石仏群達も大勢の会員の声にびっくりしたことだろう。



たが、ピンコロ観音として有名な「如法寺・鳥追觀音」に着く頃には日も差して、この寺の宝である彌物の「三猿」を探していると住職が長竿を手に探し方を面白、可笑しく説明してくれた。

如法寺からの帰途、県境ではまた大雨だつたが、越後路に入るとすっかり晴れて薄暮の中を会友と別れ、夏の日の石仏の会のイベントは無事に終了した。

## 事務局だより



### ◇第21回石仏フォーラムのご案内

日 時 11月19日(日) 10時～15時10分  
会 場 新潟県生涯学習推進センター  
2F大研修室(県立図書館並び)

第一部 10時～公開講演会  
演題「地名と石神仏について」(仮題)  
講師 長谷川 熱氏

(新潟県地名研究会会長)  
第二部 13時～調査研究報告  
「新潟県内の道路元標保存に向けて」  
渡辺 等氏(新潟市)  
野内 隆裕氏(新潟市)

「みなどまち・石めぐり」  
第三部 14時40分～情報交換  
石仏調査成果はじめ不明石仏、変わつた石仏など、身近な話題をお持寄りください。

・同封の出欠ハガキを11月10日までに返送願ります。

・会員外の参加費 500円(資料代等、当日会場で)

- ・昼食を持参してください。(センター近くには食堂やパン屋などあります)。
- ・会員同士、声をかけあって参加してください。

### 生涯学習センターへのバス(ご案内)

行き 新潟駅南口 CoCoLo 南館前 バス乗り

場③ 9時10分発(女池愛宕ゆき) 9時24分着 野球場・科学館前下車。セ

ンターまで、ゆっくり歩いて約10分です。  
帰り 野球場・科学館前乗り場② 15時52分  
発 新潟駅南口 16時15分着

### ◇新入会員

齊藤 準(村上市)、石井一史(新潟市)

### ◇新潟市文化財センターで石仏講座

9月9日(土)、新潟市文化財センター主催の民俗講座として、当会の渡邊三四一氏による「路傍の石仏に学ぶ—新潟市の石仏を中心にして」と題する講演が開催されました。前半は石仏の見方・楽しみ方、後半は新潟市内の多彩な石神仏を市街地編と北国街道編に分けて紹介、当会のPR(入会案内)を交えた一時間半の講演でした。新潟市民を中心に63名が熱心に聴講し好評でした。

### ◇新刊紹介

祝 勇吉著『佐渡の石仏—佐渡島内石仏・石塔などの集大成』 同出版実行委員会編

佐渡全島の石仏四万基を独力で調べ上げまとめた祝勇吉氏(故人)の幻の名著(私家版)を、このほど高校での教え子たちが二年をかけて再編集、完全復刻出版しました。A3版(超

大判)、六〇〇頁、額布価格一六〇〇円、刊行「石楠会」(両津高校同窓会)、申込み・石楠会事務局(☎〇二五九一二七一三三八)



### 編集後記

会報一〇〇号をお届けします。おかげさまで多くの会員の皆様からご寄稿いただき、なんとか記念号の体裁が整いました。篤く御礼申し上げます。また通常どおり、八月実施の南会津の一泊有志見学会のレポートを掲載しました。

今後も会員の情報発信・交換の場として紙面づくりを続けていきたいと考えます。ご支援のほどお願い申し上げます。

(事務局・渡邊三四一)